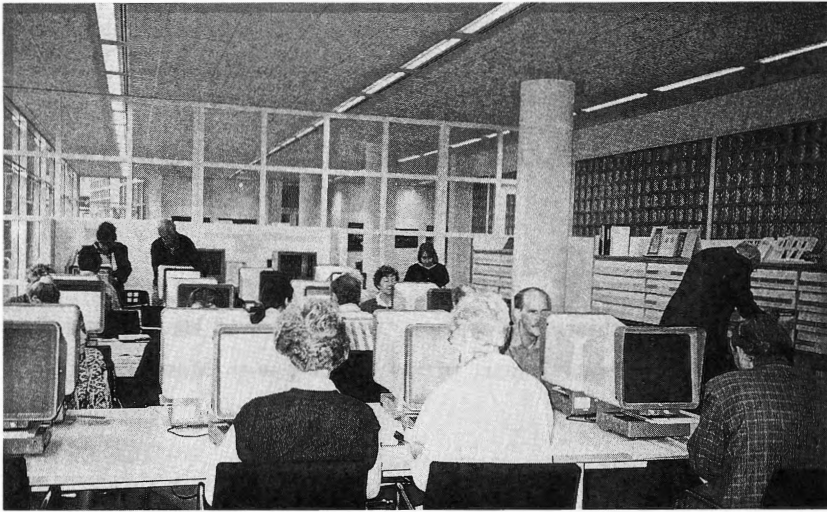


海外文書館案内 17

ハーグ市公文書館 オランダ



ハーグ市公文書館マイクロリーダに向う来館者

1996年夏に国際地理学会に出席した折、ハーグ市公文書館を訪れる機会を得た。ハーグ市公文書館は110年前に設立された。現在は1995年5月に新築された巨大な鉄骨造のハーグ市役所の一階と地階のそれぞれ一部を使っている。

職員は全体で50人程であるが、パートタイムが半分以上だそうである。書庫は地下にあり、書架延長は7.3km、書架は全て集密書架である。温度は18～19度、湿度は55%の24時間空調である。消火設備はスプリンクラーで必要な部分のみ散水するシステムであり、そのほかに消火ホースが設置されている。防災管理は市庁舎全体で行われる。

蔵書では1311年の貧困者に関する文書が同館の最も古い文書であるが、地図、写真類の資料が多くあり、とくに写真はハーグ市街地の全ての街路の写真がそろっているとのことであった。

公文書館に入口（といっても市役所の建物の中で、しかも広い吹き抜けになっているところ）では、VTR と10席ほどの椅子が置かれて市民

が休みがてらに画面を見ていた。入ったところは地下と一階の吹き抜けになっており、ハーグ市出身の写真家による展示が行われている。展示は2～3カ月ごとに変えられる。

入って左にいくとドアがあり、内部は左に目録、右にフィルムリーダーが16台ほどならんでいる。そこを抜けると受け付けがあり、その向こうが閲覧のための机がならんでいる。地下は廊下を挟んで、片側が文書関連の書庫、他方がVTR, CD-ROM, RECORD及び大判の地図類、そして写真そのものを扱う部屋となっている。写真はハーグの通りごとに整理されている。それらの写真は順次CD-ROMに焼き付けられて、利用に供される。

訪れたのは8月7日の水曜日であったが、8割方の席は埋まっていた。公文書館が市民にとってのごく自然な利用施設となっているようであったのが印象深い。

（小川雄二郎 国際連合地域開発センター）